

令和5年度
愛知県小中学校音楽教育研究会
田原大会

音楽はともだち

～感性を育み、音楽的な見方・考え方を広げる学び合い～



令和5年11月1日(水)



主催：愛知県小中学校音楽教育研究会 三河教育研究会 田原市音楽部会
後援：愛知県教育委員会 田原市教育委員会 愛知県小中学校長会 三河小中学校長会
田原市小中学校長会 田原市教職員会 (公財)愛知教育文化振興会

音楽はともだち

～感性を育み、音楽的な見方・考え方を広げる学び合い～



研究主題のとらえ方

本研究では、児童生徒がさまざまな音楽と関わり、音楽的な見方・考え方を広げながら学び合うことで、音楽のよさを多面的に味わい、生涯にわたって音楽と関わり続けていく資質を育むことをめざす。

- ◆感性とは、児童生徒一人一人が生まれながらに持っている感情や感覚であり、音楽科においてさまざまな音楽のよさを感じる感受はその一つである。感受を「心の窓」に例えるならば、外からの働きかけによって多様な「心の窓」に気づき、さまざまな音楽経験を積み重ねる中で、児童生徒が自ら「心の窓」を開けていくことを、「感性を育む」ととらえる。
- ◆「音楽的な見方・考え方を広げる」とは、より多くの「心の窓」を開いていくことである。例えば、同じ山でも異なる窓から見ると見え方が違うように、これまでの自分自身の見方とは異なる角度からも、音や音楽をとらえられるようにすること。
- ◆「学び合い」とは、児童生徒が、自分の思いを言葉や音や音楽で伝え合いながら意見交流をする中で、一人一人の感じ方の違いを明確にしながら受けとめ、音楽のよさやおもしろさを味わうこと。



めざす子どもの姿

音や音楽を新たな視点でとらえ、そのよさやおもしろさに気づいて楽しむ子

〈本研究で子どもたちにつけさせたい力〉

- | | |
|-----------------------|----------------------|
| ① 感受した音や音楽を自分の言葉で伝える力 | ② 音楽を生活経験と関わらせてとらえる力 |
| ③ 音や音楽を多面的にとらえる力 | ④ 感受と知覚を関連付けける力 |

めざす子どもの姿にせまるための手だて

- 小中9年間を見通して、児童生徒の思考を支える基本的な知識・技能の習得を意識し、ねらいを焦点化したり領域を組み合わせたリした題材を構想する。
- 教師が一人一人の児童生徒の感じ方やとらえ方を大切にし、児童生徒の多面的な見方・考え方を広げられるような学習を展開する。
- 感受した音や音楽を自分の言葉で伝えられるよう、教師が児童生徒にとって身近な言葉で示したり、音楽を形作っている要素に目を向けられるよう聴き比べを取り入れたりする。
- 児童生徒が学びの成果を実感できるよう、学級や校内、学校間で音楽交流の場を作る。
- 音楽を客観的にとらえ、課題を解決したり自分の考えをまとめて音楽を批評したりするために、ICTやデジタル教科書を効果的に活用し、視覚化や共有化を図る。

小学2年

「そーれまつりだ! 反復 わっしょい!」

反復と変化を使った
曲の構成

リズムが反復したり変化したりするよさやおもしろさに気づく。いつでも、どこでも、誰とでも打てる「ライ太鼓」を使うことで、学習意欲を支える。

段ボール箱と竹のバチで「ライ太鼓」をつくったよ。



どんな感じになるのかな。打って確かめてみよう。

みんなと一緒に打つと楽しいな。

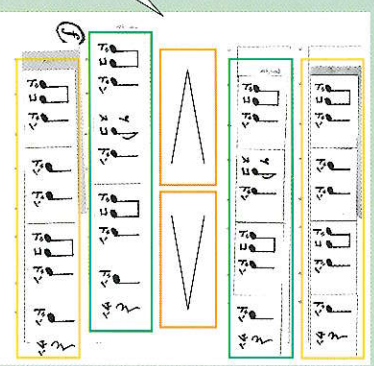
友達をつかったリズムとつなげて16小節の「おまつリズム」をつくり、強弱で変化をつけよう。

お祭りみたいに、元気で楽しい感じにしたいな。



「黄緑黄緑」を「黄緑黄黄」にすると、感じが変わるね。どっちがいいかな。

おみこしが近づいてきてから速くに行っちゃみたいにしたいたいから、にしたよ。



反復や強弱の変化を使ったら、前よりもっとお祭りらしくなった気がするよ。



小学3年

「音楽でまほうをかけよう」

音の特徴と
イメージの結び付き

材質の違いによる音の特徴をとらえ、まほうの成功や失敗のイメージに合うよう「打ち方」鳴らす回数「強弱」を変化させることで、音とイメージを結び付けられるようにする。

まほうの音楽に使う「ざいりょう」を集めよう。

ウッドブロックは交互に鳴らして迷っている感じにしようかな。

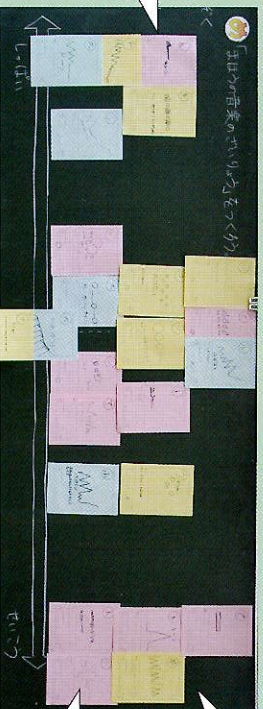


大太鼓を大きくドーンと鳴らしたら、皮が響いて爆発したかみたいな音がするよ。

トライアングルのチャリリっていう音は、きらきらしていて使えそう。

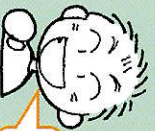
集めた「ざいりょう」を聴き合って、まほうの成功失敗座標に表そう。

ギロは、まほう失敗のイメージが多いよ。



成功編には、金属の楽器が多いね。

金属の楽器はきらきらした音が多いから、成功した感じに聞こえるのかな。



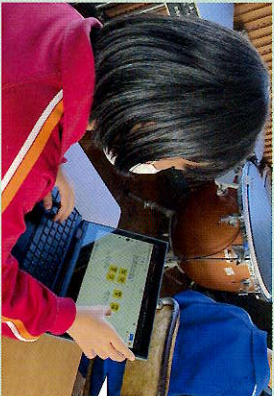
楽器の鳴らし方によって雰囲気が変わるね。まほう成功とまほう失敗、両方の音楽をつくってみたいな。

小学5年

「日本音楽ともだちになるう」

音の構成と醸し出す
雰囲気との関わり

共通点を見つける活動をすることで、旋律をよく聴いて音楽的な要素に目を向けられるようにする。身近に日本の音階が使われていることに気づく。



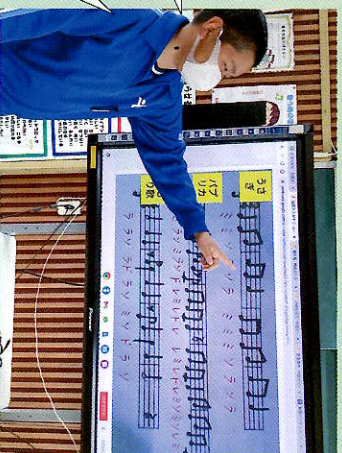
「春の海」 「パプリカ」 「ロンボン橋」 「きらきら星」 「子もり歌」 「うさぎ」
この6曲を聴いて、共通点を探して仲間分けしよう。

- ・ 明るい曲は長調だから長調と短調かな。
- ・ 民謡（昔）と歌謡曲（今）に分けたらどうか。
- ・ 何となく日本っぽいような気がしたから和（日本）と洋（外国）かな。

この4曲が日本らしく感じるの、どうしてだろう。
楽譜から考えよう。

「うさぎ」の楽譜を見ると、フレンドシがありません。

「パプリカ」にも「子もり歌」にも
ないです。



そんなの、たまたま
じゃないの？

ほんとは。
どれにもないね。
もう1回聴きたい!



この4曲は、どの曲も「ドレミソラ」の5つの音しか使っていないことが、日本らしさと関係あるのかな。

小学6年

「和音の世界へようこそ」

和音の響きと
旋律の関係

「きらきら星」と「星の世界」の楽譜を比較する活動を行うことで、和音と旋律の関係に
目を向けられるようにする。

和音と旋律の関係のひみつを見つけよう。

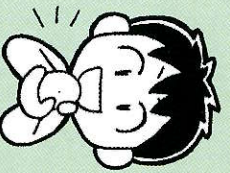
楽譜を見ると、「きらきら星」は、旋律にある音が和音に入っ
ているよ。

「星の世界」は、和音にない音が少し入っているから、
合わないと思うよ。聴いて確かめてみよう。

「星の世界」の「ソーラソミソド」
ように、1の和音にない音があるけど、
それでも合う場合もあるんだね。



楽譜を縦に見ると、旋律に入っている音が和音でも使われていることが分かったよ。
だから、「きらきら星」は、1度の和音ばかりじゃ、旋律と合わなかったんだ。



中学3年

「作曲者の思いを感じ取りながら、グルタバを味わおう」

多面的な曲の
とらえと味わい方

曲の構造を標題別に比べたり、社会的背景を既習曲と比較したりすることで、曲の理解を深める。そして、作曲者の思いを探ることで、音楽を深く味わうための感性をみがく。

曲中に表れる3回の主題の構造を比較し、感じ取った作曲者の思いに迫る。

主題が短調から長調に転調することで、エネルギーが増していく感じがする。

ベートーヴェンの交響曲第5番とは違って、スメタナは曲の中に祖国への愛や誇りを込めたんだ。

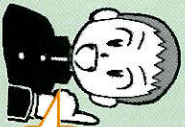
曲中にチェコの自然や伝説を表現したのは、祖国を取り戻したいというメッセージかな。



主題にクレシエンドなどの強弱記号がたくさんつけられていて、スメタナのこの主題に対する思い入れが感じられるね。

タブレットでもう一回標題部分を聴いて、曲の構造を確かめよう。

3回目の主題は、強く、テンポが速く、長調になっているから、大きな川が堂々と流れる情景を表現したかったんだと思う。



この曲は、川の情景を表しているだけではなく、スメタナのチェコへの強い愛国心が込められているんだ。

研究の成果

- 表現領域と鑑賞領域を一つの題材の中に位置づけて構想して学習を展開したことは、児童生徒が音楽を形づくっている要素をいろいろな方向から学ぶことにつながり、ねらいとする見方・考え方を広げることにもつながった。
- お祭りのおはやしや、子どもたちにとってなじみのある旋律を教材として取り上げ興味を引き出したことで、音楽に親しみをもって学び続けることができました。
- タブレット（タブレット）の機能を生かし、個人やグループで試行錯誤しながら音楽づくりをしたり、鑑賞の際に児童生徒が自分で気になる部分を聴き返したりするなど、効果的に活用することで、学び合いが深まった。
- 鑑賞活動において、感受を知覚と関連づけて考える場合と、作曲者の社会的な背景などを関連づけ、さまざまな角度から音楽をとらえる場を設定することは、生徒がより深く曲の魅力を味わうことにつながった。
- コロナ禍において、オンライン発表や意見交流など、他校との交流の場を意図的に設定したことは、児童生徒が目標をもち、互いに刺激を受けながらつながりを深めることができた。



課題

- △児童生徒が意図する音楽表現に結び付けるための技能の習得のあり方。
- △限られた学習時間の中で、児童生徒が主体的に音や音楽に関わるための課題設定や、学習のねらいを焦点化するためのカリキュラムを明確にしていくこと。
- △学校間の交流を広げていく方法を探っていくこと。

各実践の詳細い
内容はこちら



「心ひとつに」全校合奏

田原市立亀山小学校

亀山小学校は、「心ひとつに」を合言葉に、8年前から全校合奏に取り組んでいます。音楽の授業や朝の活動時間、高学年は部活動の時間を使い、学芸会や田原市小学校音楽会で発表することを目標に練習をしています。練習中には、上の学年の子が下の学年の子を教えたり、高学年の金管合奏の響きに合わせて、低学年の子が気持ちよさそうに歌ったりする姿が見られます。「全校のみんなで合わせる時が一番楽しい」と、笑顔で話す子どもたち。全校児童41人、みんなで遊べる仲のよさを生かし、「亀山っ子」らしい演奏をめざしています。



市内小中学校での音楽交流

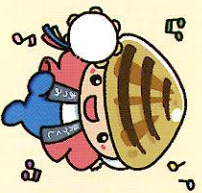
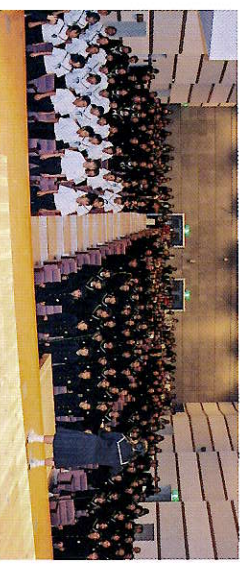
同じ中学校区の2つの小学校で、オンラインによる音楽交流を行いました。

- ・高松小5、6年生の太鼓が、とてもすてきだと思った。息の合った演奏で、身体の動きもしっかりと合っていた。
- ・リコーダーとけんぱんハーモニカが交互に聞こえてきたから、呼びかけっこしているように楽しそう。
- ・メロディーを目立たせたいところは、他のパートの音を弱くしていた。アコーディオンと木琴など、種類のちがう楽器が重なる時、音に迫力を感じた。



統合する2つの中学校で、合唱交歓会を行いました。一緒に歌ったり聴き合ったりして、交流を深めることができました。

- ・合唱の歌い合いをした。パートごとで交流し、良いところを伝え合ったり、アドバイスし合ったりすることができた。
- ・赤羽根中との交歓会が楽しかった。男声パートが安定していて、ソプラノもきれいだかった。私たちも見習って、練習をがんばりたい。



田原市では、全校での音楽活動や部活動の取り組みを発表する場として、「田原市小学校音楽会」を開催しています。練習の成果を出そうと、子どもたちの表情も真剣そのものです。この音楽会は、発表の場としてだけでなく、金管合奏、器楽合奏、合唱奏、合唱など、いろいろなかたちの演奏を聴くことができる場でもあり、音楽を通して交流できる貴重な機会となっています。



<ご指導いただいた先生>

尾崎 弘明先生：元豊橋市立玉川小学校長・元音楽教育推進協議会東海北陸支部副支部長（愛知県常任理事）

高橋 勇佑先生：チューバ奏者・管楽器指導者

<研究にたずさわった先生方> ★部会長 ☆副部会長 ◎研究主任 ○研究副主任 ◆指導員 ◇音楽部会主任

★伊藤 悦子 ☆下田 公子 ◎河合 寛樹 ○彦坂恵理子 ◆中神 淳子 ◇河邊 奈美 ◇鈴木 充昭
 (令和5年度) 川口久美子 齋藤 佑磨 鈴木美奈子 長谷川花奈 花井 理紗 原 美翼
 廣瀬 京子 藤雄 千春 松元 芹香 森下まどか 渡會沙和子
 大羽 郁恵 大林 智晴 廣下 寛子 森下 恵美
 (令和4年度) 内橋 貴代 今川めぐみ 川口 航 長谷川祐子 山田 雄子

